



－ 定番のゲームをマスターする④ (新しい語彙・表現に慣れ親しむ活動の充実) －

長期休業も挟みましたので、かなり間が空きましたが、「定番のゲームをマスターする」と題した4回目は、ステレオ・ゲームです。7月の研究所研修講座でも紹介した活動です。今回も、細かいニュアンス・感覚を伝えられるよう努力してみます。

Stereo Game (ステレオ・ゲーム)

語彙の練習で使えますが、Q&Aなど表現の練習としても効果的な活動の一つです。基本の確認です。

- (1) ねらい・効果…数名の児童が異なる単語を一斉に言い、だれが何と言ったかを聞き取るゲームです。集中して耳を傾けることによって言葉への意識が高まることが期待されます。

また、「単語」ではなく「センテンス」を言うようにすると、Q&Aの「やり取り」の練習になります。いずれにしても、大勢で一斉に尋ねたり答えたりするところがポイントです。自信があまりない段階で「一人で『話す』」ことを求め過ぎてはいけません。「聞くこと」と「話すこと」では、ストレスのかかり方が異なるということを指導者は押さえておかなければなりません。

- (2) 準備するもの…代表の児童用に、A4サイズ程度のフラッシュカードか、L版程度のミニカードが1セットあれば大丈夫です。Q&Aの英語の文章を黒板やホワイトボードに「書いておくかどうか」については、明確な基準はありませんが、私は What/When/Where など疑問詞から始まる文章については、「書いておく」ことが多いように思います。出だしの疑問詞は大切なので、「視覚でも」押さえられるように、「見ただくったら見られるように」しておきます。あくまでも「音声による活動を支えるもの」という考え方です。

- (3) 進め方 Hi, friends! 2 Lesson5 Q: Where do you want to go? A: I want to go to Italy. を例に話を進めます。
Q&A編 ・黒板やホワイトボード前に、さまざまな「国(国旗)のカード」を持った数名の児童が横一列に並びます。もちろん持っているカードは他の児童には見せません。人数は少ないより多い方がいいでしょう。私なら、少なくとも6人以上を目安にします。

- ① ALTがいれば、デモンストレーションを見せます。ALTも1枚カードを持って、黒板前の児童の列の間に立ち(②側)、HRTは残りの児童の側に立ちます。(①側)

- ② Where do you want to go?. <HRT①側>

「あなたはどこに(どこの国に)行きたいですか?」
(大勢が声を揃えるようなジェスチャーを付けたり、「1, 2!」などとタイミングをとってあげると合わせやすいです。)

- ③ I want to go to Italy/America/Australia. <ALT②側>
「私は、イタリア/アメリカetcに行きたいです。」
(下線部分を、「ごちゃまぜ」で言うような言い方・ジェスチャーを付けてあげます。②の質問文以上に、タイミングを上手に合わせるのがポイントです。)

- ④ I know! 「分かった!」

Mark-sensei が(言ったのは), I want to go to Italy!! のように当てていきます。<HRT①側>

- ⑤ Bingo! 「当たり!」/OK! 「いいよ!」 などと言って、持っていたカードを見せます。<ALT②側>

- ・いかがでしょう。いくらかイメージを持つことができたでしょうか。デモンストレーションを見せられないと日本語での説明がどうしても多くなってしまいます。「シンプルな英語を使って、やり方を見せる」のがポイントです。ALTがいないときは・・・一人二役で、あるいは積極的な児童とやって見せます。最後にアレンジのアイデアと気を付けたい配慮を紹介します。

- (4) アレンジ ・一つは、「正解を当てられても続けること」です。カードを見せた上で次も言うことにすると、尋ねる側のみんなを惑わせるような感じになり、ゲーム的な楽しさが増します。「I want to go to ~」のくり返し練習にもなります。英語の音を聞き分けようとする集中力も増すことが期待されます。

- (5) 気を付けたいこと ・前に並ぶ児童(②側)には、「当ててもらってOKのゲームだよ。ちゃんと言っている証拠だよ。」ということを伝えます。「(ゲーム性を意識するあまり)当てられないように、しっかり言わない」児童がいると、「ちゃんと言っていない!ズルしてる!」と、楽しい活動も雰囲気が悪くなってしまいます。また、「慣れ」が不十分な状態でやると、みんなの前に立つことが「辛い・苦しい」児童が出てきてしまいます。大切な観察のポイントです。

